

防災福祉コミュニティアンケート結果（集計表）

調査概要

1 調査目的

本調査は、現在の防災福祉コミュニティ（以下、防コミ）の現状や役員の意識を把握し、今後の防災福祉コミュニティ事業の推進に関する検討の基礎的な資料とするものである。

2 調査概要

(1) 調査企画

防災福祉コミュニティ事業の推進に関する検討会（神戸市消防局）

(2) 調査協力

兵庫県立大学 木村玲欧研究室

(3) 調査対象

防災福祉コミュニティの役員等

(4) 調査数

配布数 573 票（防コミ 191 地区×1 地区 3 人）

(5) 調査方法

①回答者への配信方法

防コミ代表者へ郵送、防コミ代表者から防コミの役員等へ配布

②回答方法

配布された各防コミ役員からの郵送返却

(6) 調査期間

平成 25 年 6 月 24、25 日発送・平成 25 年 8 月 7 日締切

3 回収状況

有効回答数は 419 票（有効回答率は 73.1%）であった。防コミ単位でみると 191 地区中 166 地区から回答があり、防コミの回答率は 86.9%であった。

4 分析について

分析について、基本的には有効回答者数（n=419）を 100%として算出し、小数点第 2 位を四捨五入している。このため、各項目の割合の合計が、100%にならない場合がある。

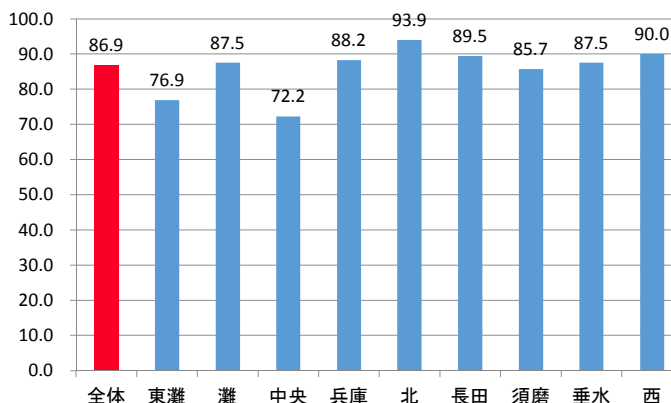


図 各区における回答率（n=191）

防災福祉コミュニティ各位

防災福祉コミュニティの活動等についての

アンケートについて

平成 25 年 6 月 吉日
神戸市消防局

皆様方におかれましては、ますますご清祥のこととお喜び申し上げます。

防災福祉コミュニティは、阪神・淡路大震災を教訓に結成され、各地域で防災訓練をはじめ、震災の教訓を継承するための防災教育などにも取り組み、地域防災力の向上において大きな役割を担っていただいているところです。

しかしながら、阪神・淡路大震災から 18 年が経過するなか、災害も大規模化・複雑多様化してきており、南海トラフの巨大地震による大きな揺れや津波の来襲が懸念されており、地域が直面する新たな課題もでてきております。

そこで、阪神・淡路大震災から 20 年を目前に、「防災福祉コミュニティ事業の推進に関する検討会」を開催し、これからの自主防災の方向性について検討しているところです。

このたび、皆様方の活動内容や運営状況をアンケートでお聞かせいただき、検討会終了の際には結果をまとめ、皆様方へ配布させていただく予定です。

つきましては、ご多用のところ誠に恐縮ですが、アンケートの趣旨をご理解の上、ご協力いただきますようお願い申し上げます。

■ ご回答にあたっての注意事項

- 1 このアンケートは、各防災福祉コミュニティの会長等役員 3 名の方に回答をお願いしております。
- 2 ご記入いただいたアンケートにつきましては、集計データを兵庫県立大学 木村玲欧研究室にお渡しし、分析等を行います。
- 3 ご記入いただいた内容は統計的に処理させていただき、個人名や個人のご意見として外部に漏れることはありません。
- 4 記入が終わりましたら、同封の返信用封筒で平成 25 年 7 月 19 日 (金)までに投函してください。切手は不要です。

なお、アンケートに関するお問い合わせは、下記までお願いします。

神戸市消防局予防課

〒650-8570 神戸市中央区加納町 6-5-1

Tel : 078-322-5754 Fax 078-325-8525

注記がない場合は、回答者数 419 人を
100%としている

DKNA：わからない・無回答

1

あなたが所属する防災福祉コミュニティについておたずねします

問1 あなたが所属する防災福祉コミュニティの名称をご記入ください。 単数回答%

東灘区 6.2、灘区 7.4、中央区 7.2、
兵庫区 9.5、北区 19.6、長田区 10.3、
須磨区 9.5、垂水区 11.7、西区 17.2
DNKA 1.4

問2 大規模な地震が発生した場合には、あなたの防災福祉コミュニティでは、どのような活動をすべきだと考
えられますか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

複数回答% <発生直後に行う個人の活動>

- 85.7 1 テレビ・ラジオ等での地震・被害の情報収集
- 71.8 2 地震の情報について防災福祉コミュニティの役員間の電話等での情報交換
- 63.2 3 防災福祉コミュニティ役員等の参集

<地域の災害対応>

- 52.7 4 地域の災害対策本部を立ち上げ
- 83.8 5 地域の被害等の情報収集・確認
- 59.9 6 連絡網に従った情報伝達
- 74.2 7 安否確認
- 65.2 8 地域のパトロール
- 39.6 9 消火
- 63.0 10 救出・救護
- 58.9 11 災害時要援護者の避難支援
- 58.0 12 避難所等での支援・運営活動
- 38.2 13 避難先での要援護者への避難生活支援
- 2.6 14 その他 ()
- 0.2 DKNA



問3 大規模な地震が発生した場合には、あなたの防災福祉コミュニティでの活動実績をふまえると、地域でどのような活動が実際に出来ると考えられますか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

複数回答% <発生直後に行う個人の活動>

- 80.7 1 テレビ・ラジオ等での地震・被害の情報収集
- 66.1 2 地震の情報について防災福祉コミュニティの役員間の電話等での情報交換
- 57.8 3 防災福祉コミュニティ役員等の参集

<地域の災害対応>

- 46.3 4 地域の災害対策本部を立ち上げ
- 77.6 5 地域の被害等の情報収集・確認
- 53.7 6 連絡網に従った情報伝達
- 63.0 7 安否確認
- 59.2 8 地域のパトロール
- 34.8 9 消火
- 50.8 10 救出・救護
- 43.7 11 災害時要援護者の避難支援
- 53.0 12 避難所等での支援・運営活動
- 27.2 13 避難先での要援護者への避難生活支援
- 3.6 14 その他 ()
- 1.7 DKNA

問4 4月13日の淡路島を震源とする地震(マグニチュード6.3)では、神戸市の最大震度は4でした。この地震において、実際にどのような活動を行いましたか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

複数回答% <発生直後に行う個人の活動>

- 76.3 1 テレビ・ラジオ等で地震・被害の情報収集を行った
- 19.8 2 地震の情報について防災福祉コミュニティの役員間で電話等で情報交換をした
- 3.6 3 防災福祉コミュニティの役員等が参集した

<地域の災害対応>

- 3.1 4 地域の災害対策本部を立ち上げた
- 22.9 5 地域の被害等の情報収集・確認を行った
- 7.6 6 連絡網に従って情報伝達を行った
- 15.5 7 安否確認を行った
- 15.5 8 地域のパトロールを行った
- 1.0 9 消火を行った
- 3.6 10 救出・救護を行った
- 2.6 11 災害時要援護者の避難支援を行った
- 4.5 12 避難所等での支援・運営活動を行った
- 2.1 13 避難先での要援護者への避難生活支援を行った
- 4.1 14 その他 ()
- 8.8 DKNA

問5 あなたの防災福祉コミュニティは、南海トラフ巨大地震が起きたとき、津波による浸水の恐れのある地域ですか。あてはまるものを1つ選び○をつけてください。

単数回答%

- 10.3 1 地域の大部分が浸水する
- 12.4 2 地域の一部が浸水する
- 70.9 3 浸水しない
- 5.9 4 わからない
- 2.4 DKNA

2

あなたの地域の防災福祉コミュニティの活動についておたずねします

問6 あなたの防災福祉コミュニティでの以下のそれぞれの活動について、年間の活動回数を記入してください。

	回答者の平均値 (回数)
総合訓練※	年間 約 (1.7) 回
ブロック訓練※	年間 約 (2.1) 回
総会・会議	年間 約 (5.6) 回
パトロール	年間 約 (10.8) 回
その他 ()	年間 約 (10.8) 回

※ 総合訓練とは
地域全体での防災訓練

※ ブロック訓練とは
自治会単位等の小規模防災訓練

問7 あなたの防災福祉コミュニティの総合訓練について、参加者の年齢構成をおおよそで構いませんので割合を記入してください。

※全部の割合を足すと 10 になるようにお答えください。

中学生まで	参加者の約 (1.7) 割
高校生～20代	参加者の約 (0.4) 割
30・40・50代	参加者の約 (2.2) 割
60代	参加者の約 (3.0) 割
70代以上	参加者の約 (2.8) 割
	回答者の平均値 (割合)



問8 あなたの防災福祉コミュニティでの総合訓練について、約5年前（平成20年ごろ）と比べて参加者数はどのように変化していますか。

単数回答%

- 23.2 1 かなり増加した（約2倍以上）
- 48.9 2 やや増加した
- 11.2 3 ほぼ変わらない
- 1.9 4 やや減少した
- 5.5 5 かなり減少した（約半分以下）
- 6.0 6 わからない・不明
- 3.3 DKNA

問9 あなたの防災福祉コミュニティでのブロック訓練について、約5年前（平成20年ごろ）と比べて参加者数はどのように変化していますか。

単数回答%

- 20.5 1 かなり増加した（約2倍以上）
- 44.2 2 やや増加した
- 11.2 3 ほぼ変わらない
- 2.6 4 やや減少した
- 9.1 5 かなり減少した（約半分以下）
- 7.9 6 わからない・不明
- 4.5 DKNA

問10 災害発生時の「災害時要援護者の安否確認・避難支援」についておうかがいします。

あなたの地域での訓練の状況・支援計画の状況について、あてはまるものそれぞれに○をつけてください。

問10（1）災害時要援護者の支援訓練の状況について（避難支援訓練、車椅子の取扱い訓練、福祉施設との連携訓練、外国人・乳幼児を対象とした訓練、避難所での要援護者支援訓練等）

- 単数回答%
- 29.4 1 いくつかの組織・団体が合同で訓練を実施している
 - 16.7 2 防災福祉コミュニティが単独で訓練を実施している
 - 42.7 3 防災福祉コミュニティでは訓練を実施していない
 - 7.4 4 わからない
 - 3.8 DKNA

問10（2）地域での災害時要援護者に関する支援計画の状況について

- 単数回答%
- 25.3 1 いくつかの組織・団体が合同で計画を作成している
 - 14.3 2 防災福祉コミュニティが単独で計画を作成している
 - 45.1 3 防災福祉コミュニティでは計画を作成していない
 - 11.2 4 わからない
 - 4.1 DKNA

問 11 災害発生時の「避難所等の運営」についておうかがいします。

あなたの地域での訓練の状況、防災計画・マニュアルの状況について、あてはまるものにそれぞれ○をつけてください。

問 11 (1) 避難所等の運営訓練の状況について

- 単数回答% 22.2 1 いくつかの組織・団体が合同で訓練を実施している
17.4 2 防災福祉コミュニティが単独で訓練を実施している
48.2 3 防災福祉コミュニティでは訓練を実施していない
10.3 4 わからない
1.9 DKNA

問 11 (2) 地域での避難所運営に関する防災計画・マニュアルの状況について

- 単数回答% 16.9 1 いくつかの組織・団体が合同で防災計画・マニュアルを作成している
13.1 2 防災福祉コミュニティが単独で防災計画・マニュアルを作成している
52.3 3 防災福祉コミュニティでは防災計画・マニュアルを作成していない
14.1 4 わからない
3.6 DKNA

問 12 あなたの防災福祉コミュニティでは、災害発生時に「地域の災害対策本部」(役員などが集合して 情報収集・対応指示をする拠点)を設置する計画がありますか。あてはまるもの1つに○をつけてください。

単数回答%

- 15.8 1 文書等に明記されている
33.9 2 文書等では明記されていないが、設置することになっている
30.1 3 設置する計画等がない
18.1 4 わからない
2.1 DKNA

問 13 あなたの防災福祉コミュニティでは、活動の年間計画やスケジュールを作成していますか。

単数回答%

- 14.5 1 詳細なものを作成している
38.0 2 簡易なものを作成している
30.7 3 作成していない
15.1 4 わからない
1.8 DKNA

問 14 あなたの防災福祉コミュニティでは、総合訓練の実施計画を作成していますか。

単数回答%

- 32.9 1 詳細なものを作成している
52.0 2 簡易なものを作成している
10.5 3 作成していない
3.1 4 わからない
1.4 DKNA

問 15 あなたの防災福祉コミュニティで行われている会議や打ち合わせは、以下のどの形式に一番近いですか。
最もあてはまるものを1つ選び○をつけてください。

単数回答%

- 24.3 1 代表者・役員が計画を作り、会議等で伝達される形式
- 33.7 2 代表者・役員の計画案を、会議等で修正して合意する形式
- 12.9 3 会議等で、参加者全員で意見を出し合って計画を作りあげる形式
- 23.4 4 これまで踏襲されたものを代表者・役員が中心になって検討して実施する形式
- 3.3 5 わからない
- 2.4 DKNA

3

防災福祉コミュニティの組織づくりについておたずねします

問 16 会長・本部長をどのように決定（確保）していますか。もっともあてはまるもの1つに○をつけてください。

単数回答%

- 5.3 1 立候補や進んでやってくれる人がいる
- 37.7 2 有望そうな人に頼んでいる
- 22.4 3 推薦（推薦投票）によって
- 23.9 4 決められたルールによって
- 3.6 5 輪番制
- 0 6 くじ引き
- 1.7 7 その他（ ）
- 3.1 8 わからない
- 2.4 DKNA



問 17 あなたの防災福祉コミュニティでは、組織活動を行う際に、組織にどのような特徴があるとお思いになりますか。以下を読んで、それぞれについてあてはまる番号に○をつけてください。

①～⑩までの各項目における単数回答%	1	2	3	4	5	DKNA
	そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらでもない	どちらかといえばそう思わない	そう思わない	
① 各メンバーの役割がはっきりしている	27.2	39.9	19.3	7.2	3.3	3.1
② 代表者・役員の役割がはっきりしている	37.0	43.4	11.7	2.9	2.4	2.6
③ メンバー間で活動目標が共有されている	19.3	39.4	24.8	10.3	2.1	4.1
④ 活動計画がしっかり作られている	23.4	36.5	24.3	8.1	4.3	3.3

⑤ 人材と物的資源が十分である	2.6	22.9	32.5	25.1	13.1	3.8
⑥ 各メンバーの能力と役割内容が腑に落ちている	6.2	26.7	36.3	21.0	6.0	3.8
⑦ 活動のスケジュールが設定されている	24.6	40.3	16.2	10.3	5.0	3.6

⑧ 進捗状況が定期的にチェックされている	8.6	29.1	34.4	14.6	8.1	5.3
⑨ 代表者不在の時の代役が決まっている	27.7	34.4	20.3	8.8	6.7	2.1
⑩ 活動の参考となるようなメンバーがいる	15.0	30.1	31.5	12.9	7.4	3.1



問 18 あなたの防災福祉コミュニティでは、コミュニティ内の結束を保つため、組織はどのような工夫をしているとお思いになりますか。以下を読んで、それぞれについてあてはまる番号に○をつけてください。

①～⑩までの各項目における単数回答%	1	2	3	4	5	DKNA
	1 そう思う	2 どちらか といえば そう思う	3 どちら でもない	4 どちらか といえば そう思わ ない	5 そう 思わない	
① メンバーがそれぞれの目標を把握している	10.5	33.7	30.8	15.8	4.3	5.0
② メンバーが何を期待されているか理解している	9.1	35.1	32.2	14.8	4.8	4.1
③ メンバーの人数は適正である	6.7	29.6	28.6	21.5	9.3	4.3
④ 役割に適した人材がメンバーになっている	9.8	32.0	30.3	14.3	8.4	5.3

⑤ チームワークが活動に活かされている	16.7	43.0	26.5	7.9	2.6	3.3
⑥ 公正・公平な活動ができている	15.3	43.4	27.0	6.4	4.1	3.8
⑦ 組織の和が保たれている	21.7	48.4	20.0	4.1	1.7	4.1

⑧ 定期的に進捗報告が行われている	15.3	35.8	26.7	11.9	5.0	5.3
⑨ メンバーの意向をくみ取っている	14.3	39.4	29.1	10.5	2.9	3.8
⑩ メンバーの活動をサポートしている	14.8	35.6	32.9	8.8	3.3	4.5



問 19 あなたの防災福祉コミュニティでは、メンバーの育成のために、組織はどのような工夫をしているとお
いになりますか。以下を読んで、それぞれについてあてはまる番号に○をつけてください。

①～⑩までの各項目に おける単数回答%	1	2	3	4	5	DKNA
	1 そう思う	2 どちらか といえば そう思う	3 どちら でもない	4 どちらか といえば そう思わ ない	5 そう 思わない	
① 新しく加入した人をメンバーに紹介している	31.0	30.8	20.3	7.4	5.3	5.3
② 個人の役割が全体にどう貢献しているか伝えている	6.0	28.9	40.8	14.1	5.5	4.8
③ 自分の役割の内容を正確に把握している	14.1	34.6	31.5	12.9	3.6	3.3
④ 自分の活動に必要な権限を持っている	10.5	34.8	31.7	12.4	5.7	4.8

⑤ 能力向上のための研修・機会が設けられている	16.2	32.5	30.1	10.5	4.8	6.0
⑥ 個々の努力を認めてもらえる土壌がある	8.1	31.3	35.3	13.4	6.7	5.3
⑦ 適切な役割が与えられている	11.2	28.6	36.3	11.5	6.4	6.0

⑧ 個人の役割と能力のバランスがとれている	7.6	25.5	42.2	13.4	5.5	5.7
⑨ メンバーの性格・個性を把握している	8.6	33.7	33.4	13.1	5.0	6.2
⑩ メンバー間で相談する機会がある	14.8	45.1	23.6	8.4	2.9	5.3

問 20 あなたの防災福祉コミュニティでは、組織運営において、何か工夫していること、もしくはうまくいわずに苦労していることはありますか。どのようなことでも構いませんので、お書きください。

■工夫していること

◇会議運営方法等

- ・各種団体の役員から防コミ役員を選出している。
- ・定例委員会のレジュメ、資料をきちんと作成しており、欠席者にフォローしている。
- ・会議等では出来るだけ全員に発言してもらうなど、個々の意見を聞くようにしている。但し、発言が本筋から外れた場合は相手の発言を尊重しながら元に戻す。
- ・地区内連絡会等の要綱を定めて情報連絡会・研修訓練を開催している。
- ・月例会では防災以外にも自治会的内容の外、地域の他の活動内容も討議するなど、幅広い内容の打ち合わせができており、情報の共有化が図れている。
- ・問題点はメンバー全体で検討することとしている。
- ・活動内容については全て会議で確認を行い、役割分担を担っている。
- ・会議の開催時間を以前は 13 時頃から始めていたが、18 時からに変更したところ、若い人の参加が増えたが、活動できるのは退職者、高齢者が多く、若い人は困難である。
- ・会議の開催は毎月 1 回として日時を定例化し、欠席者のないように気をつけている。
- ・役員会を月例とし、役員会の前には執行部役員会（5 役）を開催し、役員会の論議が十分に出来るよう議論を練り資料を作成している。
- ・月 1 回の定例会は、ふれまち協とメンバーが同一なので、防コミ活動が区別できるようグループを作り（3 グループの内 1 つ）、グループ毎の打ち合わせの時間をとり、活動の内容など調整を行っている。
- ・役員が一年交代のため、現況と交代時期の引き継ぎ書を作成することで役割を継承している。
- ・毎月の会議の中で、定期的に 1 種目ずつ訓練を実施している。

◇活動内容・訓練内容等

- ・地域の人々に防コミの存在やメンバーをしっかり意識してもらえるように、常に小学校でのイベントに参加協力している。
- ・各自治会や PTA 等が必ずメンバーとして参加している。
- ・災害が起きたときのため、地域がまとまるようにコミュニティ作りを常に意識して活動している。
- ・当防コミの役割も常々メンバーに伝えている。
- ・地域全体の運動会や文化祭のときに、災害の備えの必要性や東南海地震時にどんなことが起こるかなど参加者に伝えている。
- ・平常時のブロック訓練では、ブロックが主体的に運営できるように、事前学習として心肺蘇生、担架、ロープワーク、応急手当、消火や防災 DVD 鑑賞を、防災メンバー（毎年代わる）に受講してもらっている。受講生による説明、デモをブロック訓練で一般参加者に実施し、防災技術の向上に努めている。又、ブロック訓練は 1 ヶ月間で毎日曜日 4 回、エリア別にブロック訓練を実施するが、自ブロック開催前のブロック訓練にも参加し、内容の確認と訓練資材の持ち回りを実施することで、訓練への不安の除去とブロック間の交流を促進している。
- ・ふれまちの行事の中で防災訓練を取り入れるようにしている。例：運動会での一輪車リレー、バケツリレー、消火器使用訓練、夏祭りでの消火器ゲームなど。
- ・防災行事を行なう場合、他の行事（もちつき大会など）と合わせて多人数で行えるようにしている。

- ・防災ジュニア活動において中学校の先生やPTAの方々の多くのバックアップをいただいていることで、安全な活動計画が立案できている。そのため自治会、住民の防災意識が高い感じがする。
- ・小中学生の参加を呼びかけており、若い人の活動家の参加をお願いしている。
- ・PTA、青少協、ボーイスカウトといった若い世代の方々の参加を促している。
- ・当小学校区域内の3公園（資器材設置）を毎年交替して防災訓練を実施している（3年に一回）。また、小学校4年生の防災設備を見る体験を3公園に分けて（自宅近くを選定）、老人会の人達にも協力を願って実施（小学生の時から防災意識を持つように努めている）し、常に地域内の各種団体との連携を心掛け各団体の協力を大切にしている。
- ・当地区は、広範囲であり、3公園に100t水槽が設置されているが、消火可能は100m余のため、各々分担で保管庫から小型ポンプと簡易プールのセットを折り畳み式アルミリヤカーで火元付近に設置するとともに、火元から最寄の100t水槽にも簡易プールを設置し、水槽から汲み上げた水を布バケツリレー班（現100名余）が火元近くに設置した簡易プールに運び小型ポンプで消火する方法等どうすれば地域全体を守れるかを考案し、広い公園の2箇所ですべて年に4回合同訓練実施している。また、毎月9時から11時半に狭い公園でポンプ操法のための訓練を実施している。
- ・総合訓練の時に、雨の場合は中止するが、炊き出しだけは必ず実施している。
- ・防災の心意気が風化せぬようよう、毎年1月17日の震災メモリアルウォークに任意参加して、一体感を維持するよう努めている。
- ・訓練等は土日に実施している。
- ・防災福祉の名称に合う役員の率先行動として、「防災士資格」他の関連する資格体験を通した「地震を知って備える」勉強会（講師）を会の役員全員参加で開催し、地域みんなで共有する第一歩となった。
- ・各組織の役員等で構成されているので、それぞれの立場等の理解とその義務は強く要請している。
- ・寒い時期に総合訓練を行うので、寒さ対策をいつも考えている。
- ・女性の能力を活用し、活躍を応援している。

◇関係者間の連携・協力等

- ・ふれまちで防コミを作っているが、連合自治会との連携で実施しているのが現状であり、ふれまちは主が女性なので、災害時の炊き出しの研究を行っている。
- ・災害時には地域のつながりが必要なため、防コミ活動中はもちろん活動以外の場でもコミュニケーションを図れるようにしている。
- ・組織運営において、ブロック長会議を開いて意見を出し合ってブロック訓練を行うようにしている。
- ・消防署の指導と、防コミの顧問として地域の消防支団長や支団長経験者の意見を聞きながら地域の安全安心の向上に努めている。
- ・対話と文章伝達を適宜活用している。
- ・役員が1年交代のため、現況と交代時期の引継ぎ書を作成することで役割を継承している。
- ・連絡は電話、ファックスはやめて、役員のブロック長、副ブロック長には電子メールで直接行っている。又、暑い時、寒い時の訓練には飲み物を出すなど、一緒になった時の親睦を大事にしている。
- ・定期的に懇親会を行い、メンバー間の交流及び用事があれば、メンバーの家に直接行くなどコミュニケーションをとっている。

■苦勞していること

◇人員確保、後継者育成等

- ・訓練に参加する人は、いつも同じメンバーであり、新しい人にも参加して欲しい。
- ・後継者がいないため人材に苦勞している。

- ・会員の多数が商売人で、しかも個人経営者が多く集まりが悪い。
- ・防コミメンバーの高齢化が問題であり課題となっており、若いメンバーの開拓に努力しているが、時間等の懸案があり、なかなか参加できていない。
- ・新しい人が組織に入りたがらない。
- ・全体としての呼びかけに新マンション等の参加が少なく、古い団体ばかりで老人化している。
- ・「衣食足りて礼節を知る」の言葉通り、生産年齢人口の先行見通し不透明感が活動の世代交代を阻んでいるように思う。制度上の助成の必要性を痛感する。
- ・20～30代の若いメンバーに加入してほしいのだが、その年代の人々はあまり関心を示さない。
- ・次世代者への引継ぎ方及び取り込みの方法、手段が難しい。
- ・メンバー構成が年配の方（男女）、若い主婦（PTA）がメインで若い男性が少ない。
- ・年々高齢になり、役員（特に三役）になってくれる人が無く、会議を引き受けてくれる人がいない。
- ・人材が欠乏しており、役員もよく交代して、代表の負担が大きい。
- ・地区によって役員が高齢化のため減っており、特に40～50代の協力者が少ない。
- ・ほとんどのメンバーが70～80代であり、50～60代がいないので、PRが必要である。
- ・ほとんどの皆さんは義務で出席している様子であり、人集めが大変である。
- ・防コミ独自のメンバーが確保できなく、自治会、婦人会等他の団体役員と兼任が全てであるので、防コミ独自の役員メンバーをいかに集めるかが問題である。
- ・役員を終えた人の取り込みに苦労している。
- ・居住者の自治会離れが多く、特に50～70代の地域へ貢献する余力のある人が自治会を離れており、30代で会長をしているが、仕事の為、ほとんど地域におらず、経験不足もあって、地域防災は非常に不安定である。

◇役員任期等

- ・役員メンバーが固定できず、毎年入れ替わるため十分な訓練ができない。
- ・本部役員以外の役員は、自治会の中で担当役員が選出され決定されており、役員の役割は、規約で決めるようにしている。しかし、自治会から選出する役員は1年ごとに交代するので、基礎からのやり直しを繰り返すことになり、より高度な組織運営を図りにくい。
- ・新しい団地で組織が未成熟であり、基本の自治会が、毎年メンバーが入れ替わり、役員候補の適役を見出しにくい。

◇役員、住民の意識等

- ・当地区は阪神淡路大震災では被害は比較的少なく、災害を深刻に受け止めておらず、防コミに対する関心度は0に近いので、防災訓練の参加を呼びかけても積極的に参加しようという人は少ない。
- ・当地域はほとんどの家が新築のため、倒壊する心配がないという人が多く、津波の心配がない地域のため、南海トラフは他人ごとのように思っている。
- ・今年度新規役員になったが、今まで、役員は2年程度で交代することもあり、意識もしていなく、本運営も認知していなかった。
- ・決められたことはおおよそやれているが、自分で意見を持ってやれる人が少ない。
- ・やらなければいけないのでやっている感じで、あまり真剣味が無いようである。
- ・絶対人数が足りなくて、各団体の役員が毎年交代でイヤイヤやっている。
- ・メンバーの大部分が各自治会、管理組合から輪番制で選出された人々なので、どこまで自分の役割を認識して参加しているか不明である。
- ・結束に欠けている。

◇活動内容、訓練内容等

- ・ブロック活動は活発ではなく、マンション単位の動きが地域にはわからない。設立から10年経過した頃から、活動は半減している。
- ・訓練の実施は、平日は難しい。
- ・定期的に行っている防災訓練で、日曜日にも関わらず男性の参加者が少ない。
- ・行事に参加者が少ないことに困っており、責任者がはっきりしない所に問題があるようである。
- ・ジュニア隊について、少子化もあり、年々メンバーは減少しており、当防コミでは来年もジュニア隊の活動ができるか疑問であるが、今後、他地区と連携できればと考えている。ジュニア隊活動について、当地区の小学校は理解していないようなので、活動に支障が出る場合がある。現在、小学校交渉中であるが、進展していない。
- ・企画のマンネリと参加者の不足。(例：市民救命士訓練)

◇資機材等

- ・小型動力ポンプが古く、故障が起っている。また、口径が一般と異なっている。
- ・消防用ポンプの点検整備を定期的実施する。
- ・エンジン始動時には、女性の力では始動できないことがある。
- ・資材の運搬等が困難である。

◇その他苦勞していること

- ・もっと全体的に幅広く活動したいのですが、何分にも助成金が少ないため出来ない。
- ・年2回、懇談、懇親会（アルコール付）を実施しているが、市の助成金不能使用できない。
- ・無理に活動を依頼しているが、努力に対する報酬がない。(助成金対象の飲み物だけでは人は参加しないので、半日にわたる場合は弁当など対象にできないか。役所はもっと実態を知ってほしい。)
- ・今後、自治会、民生委員と相談して、災害弱者対策を考えているが、苦勞している。
- ・避難支援者の交渉中だが一番の難事である。
- ・高齢者の1人暮らしの人の存在を知るマップを作成中であるが、個人情報保護を優先させて、なかなかマップができにくい。
- ・当小学校区は旧町村を3箇所にもたがって設定されているため、自治会や旧町村区域と全くマッチしておらず、防コミとしての働きかけに苦勞している。
- ・地域では、他の組織、団体は伝統的にもトップダウンであるが、防コミは、会議によって意見を出し合い、皆で決め、実行する体制である。そのため、防災、防犯、総務（実務）と担当者を分けた規約となっているが、各担当者のスタンドプレーが多く、困ることがある。
- ・当コミュニティは30単位自治会で構成され、数分割して活動する大きな防コミのため、非協力的な一部自治会もあり、時に触れて協力依頼をするが、なかなか足並みがそろわない。
- ・防コミの範囲が、観光地、住宅、マンション、飲食業が多く、建物のオーナーが住居されている人が少ないため、意思疎通が十分に図れていない。
- ・メンバーは防コミの活動のほか、本来の所属母体の活動（例：婦人会、民児協の活動）もあり、多忙であり負担感も大きい。
- ・活動を頭で理解しても、実践には不可能な人が多い。
- ・パソコンを使える人が少ない。

■その他意見

- ・概ねうまくいっている。

- ・日頃の連絡が緊密にできている。
- ・規約が制定されておらず、組織体制もはっきり決まっていないので最小限の活動にとどまっており、市当局が現在準備中と伝えられるマニュアルの作成を待つて本格的な組織を作り活動していきたい。
- ・組織体制の構築がまだできていないが、新規事業・行事に挑戦する意欲はある。
- ・ボランティア精神が欠けているが、各家庭の事情もあり、時間にゆとりがないことが理由であると思うので、ゆとりからボランティア精神も生まれてくる。
- ・役職にこだわり過ぎて、活動は二の次になっている。
- ・情報が伝わってこないなので、それ以上の意欲が出ない。
- ・できることの運営計画をつめる必要があるが、このアンケートの内容みたいに対応の全てをすることはなかなか難しい。
- ・会長が独自で熱心に行っているが、行政からの研修等の情報伝達が不十分である。
- ・メンバーの人たちに防災士の勉強と資格を取るよう進めているが、行く人がいない。
- ・各企業の集まりの場合、災害時には各企業で災害対策本部を立ち上げることになるため、防コミで災害対策本部を立ち上げることは、困難である。
- ・防災資機材の保管ならびに取り扱い研修を実施し、防災資機材の増設保管もしているが、県市等からの情報は広報誌のみで、直接的に具体的な指導が少ない。緊急時の対応に混乱を生じる懸念があるので、早期対応をお願いしたい。
- ・災害避難時に避難路が平面ではなく、当地域は国道路面より約 2mの段差があり、避難路が危険な地下道か階段のみの歩道橋しかなく、それらを避難路と指定するのは無理があるので、早急に平面の避難路を作ってほしい。
- ・防コミの指導・支援等について、消防署は、非常によく相談に乗ってくれるが、他の行政機関（区役所）も、もっと相談に乗ってほしい。
- ・防災福祉コミュニティをまちづくり組織の中に作り、それを利用しすぎていると思料する。我々は善意とボランティアで活動しているので、上意下達の役人的なおしつけ感がある。
- ・県市会議員がもっとコミュニティに参加するなど、各自治会コミュニティに顔を出して生の声を聞いて欲しい。

問20の自由記述は、重複意見等を集約し、すべての意見を掲載していますが、表現等につきましては、地域名等を伏せ、誤字脱字を修正した上で、語調を整えて掲載しています。

